

近世琉球における^{ぬけ}抜荷^に

-17世紀末から18世紀初めの時期を中心にして-



『首里那覇港図屏風』

2025.

5.17 ^土

入場無料

14:00~16:00
(開場 13:30)

※席数に限りがありますので、ご入場いただけない場合があります。予めご了承ください。

講師 上原 兼善 氏
(岡山大学 名誉教授)

会場 沖縄県立博物館・美術館
3階 講堂

受付 当日先着 (定員 200 名、無料)

お問合せ 098-941-8200

〒900-0006

沖縄県那覇市おもろまち 3-1-1

^{ぬけ}

抜荷とは江戸時代の密貿易のことです。徳川幕府は周知のように対外政策として鎖国（海禁）体制を打ちたて、キリスト教の波及阻止と貿易の統制、人民の自由な通交の抑圧をはかりました。しかし、人民は抜荷というかたちをもってこれに抵抗を示しました。

従来、江戸時代の抜荷の舞台といえば長崎口が注目されてきましたが、本講座では、琉球口、薩摩口の抜荷を追跡し、近世琉球の民衆像の一端に触れてみます。



【講師】上原 兼善 (うえはら けんぜん) 岡山大学 名誉教授

1944 年、沖縄県那覇市生まれ。博士 (文学)。専門は琉球史、日本近世史。九州大学文学部助手、宮崎大学助教授、岡山大学教育学部教授を経て、現在は岡山大学名誉教授。主な著書に『近世琉球貿易史の研究』(岩田書院、2016 年、徳川賞)、『黒船来航と琉球王国』(名古屋大学出版会、2020 年)、『境域の近世 慶長戦役後の琉球と薩摩』(榕樹書林、2023 年)がある。この他、2019 年に東恩納寛惇賞を受賞。

あなたの沖縄に出会う

沖縄県立博物館・美術館
Okinawa Prefectural Museum and Art Museum



【開館時間】9:00-18:00 (金・土は 20:00 まで)

【休館日】月曜日 (月曜祝日の場合は翌平日休館)